



「私はこう考える」編 その8

美咲野小だより

7月

NO. 23

H 28. 7. 21  
 大津町立美咲野小学校  
 文責：草場ルミ子

美咲野小の想い

最近の学校は、お叱りの言葉を頂くことがよくあります。感謝の言葉を頂くことは少ないものです。(卒業や進級、転勤の時などに「ありがとうございます」などの言葉はもちろんです。:) 今回、この地震後の学校の状況をお知らせすることに関して、大変迷ったことは前にも述べました。「教員ならそれくらい当たり前だろう。」と思われれるのではないかと思ったりからです。しかし、この状況は是非とも学校・保護者・地域の皆さんで共有して、みんなでこの震災を乗り越えなければ、この想いから書かせて頂きました。皆さんから、たくさんのお返事をもらい、その中には「先生たちも被災されたのに、本当にありがたうございました。」の言葉がたくさありました。私自身が大変元気づけられたように、職員も同じ気持ちです。なかなか行き届かないところも多いですが、「震災を乗り越える」という同じ目標に向かって、学校・保護者・地域が、「この美咲野がふるさとになる。美咲野の子どもたち」のために、協力し合うことが大切だと改めて思いました。「美咲野の想い」も終わりに近づき、学校への感謝のような内容が多く申し訳ありませんが紹介させて下さい。

○前震、本震を受けて、先生方の懸命の対応に頭が下がる思いです。学校開放日を設定して頂いてありがとうございました。主人は、阪神・淡路大震災を兵庫県西宮市で経験しており、その際、避難所となった小学校は、体育館が近隣の方の避難所、職員室が遺体安置所となっており、その中での授業再開。卒業式は、中学校の体育館で行われたそうです。五月初旬、美咲野小は避難所でなくなり、震災前とほとんど変わらない環境での授業再開。いろいろ考えさせられた1ヶ月でした。



○最初の地震の時、主人が仕事で私と子ども二人で寝ていました。初めてのあの大きな揺れに「どうすればいいの」と叫んでいました。今考えれば、私がもっと冷静だったら、今子どもたちに残っている不安ももっと小さいものだったかも・・・と反省ばかりです。～中略～ みんなで少しずつ元気になって「いい経験をしたね。」と思えるようにしていきたいと思います。



○今回の美咲野小だよりを読み、本当に先生方のご苦労、大変さ、学校の混乱ぶりがよく伝わりました。まさか熊本に地震なんてと、私も子どもたちも避難することの大変さがよく分かりました。



○この地震の中、先生方やPTA役員の方々に子どもたちのために動いて下さり大変感謝しています。震災の影響もあってかスクールバスも大幅に遅れています。子どもたちも先生に怒られるのでは・・・など心配もしています。スクールバスの子もたちが安心できるように対応して頂けないでしょうか。(阿蘇への交通が遮断され、二重の峠を通るルートが大変な渋滞になっており、美咲野小のスクールバスへの影響も出ております。バス利用の子もたちへは負担をかけていますが、事情はわかっていますのでご心配なく。発着に関しての対応もしていきます。)



○学校が始まるまでの間、先生方やPTAの方々には大変な負担をおかけしたのですね。学校日記もお忙しい中書いて頂き、ありがとうございました。様子が分かり、保護者として理解と協力をしていきたいと思えました。家庭訪問、学校開放も生活を戻していく励みとなりました。



○美咲野小だよりを読ませて頂き、先生方の子もたちへの想いがわかり、感謝の気持ちで涙があふれました。親にとっては、「やっと学校が再開した」くらいの気持ちでしたが、先生方にとっては、何百人もの子どもたちを危険から守り、普通の学校生活に戻すのに並外れた努力と疲労で心も体も限界状態であったと察しました。



○前震後、県外の実家に避難し本震は経験していません。大変なときに逃げてしまい、何のお手伝いもできず申し訳なく思っております。美咲野小だよりは貴重な情報源でもありました。



○「地震後の不安を担任の先生に連絡帳で伝えられたら」と思いつつ、お忙しいので申し訳ないと躊躇しておりました。美咲野小だよりを読ませて頂き、伝えていいんだと安心しました。

○関東にいる友人から、「防災頭巾」を学校にしていると聞きました。普段は座布団として使っているそうです。ヘルメットよりかさばらないので美咲野小も頭巾をもっておくのもよいかと思います。(私もずっと以前に、関東方面から転入してこられた保護者の方に熊本は防災頭巾はないのですかと聞かれたことがあります。カタログ等調べてみましたが金額的なこともあります。導入にあたっては課題も多いですが、貴重な意見に感謝しています。)

くまもと家庭教育支援条例 地域の役割 (第8条)  
 地域の歴史、伝統、文化、行事等を通じて、地域で子どもたちの育ちを支えていきましょう。



